

安全・安心モニター(第2回) 回答結果

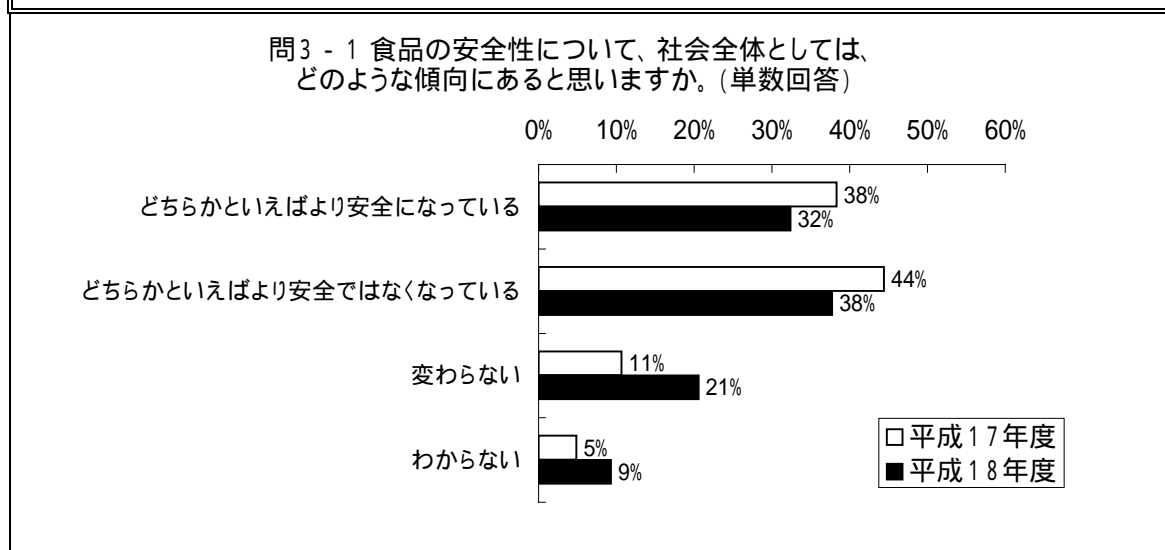
		17年度	18年度
職業	ご自身の職業についてお答えください。(単数回答)		
	食品に関連する仕事についている	11%	15% (回答者数)
	その他	87%	85% 1,569

問1	「食品の安全性」に関心がありますか。(単数回答)		
	関心がある	59%	62% (回答者数)
	どちらかといえば関心がある	37%	36%
	どちらかといえば関心がない	2%	3%
	関心がない	0%	0% 1,569

問2	どのような時に「食品の安全性」について考えますか。(単数回答)		
	日常的に考えている	36%	35% (回答者数)
	日常的にはではないが、時々考える	47%	50%
	食品の安全に関する問題が起こったときには考える	15%	15%
	あまり考えない	0%	0% 1,569

問3-1	食品の安全性について、社会全体としては、どのような傾向にあると思いますか。(単数回答)		
	どちらかといえばより安全になっている	38%	32% (回答者数)
	どちらかといえばより安全ではなくなっている	44%	38%
	変わらない	11%	21%
	わからない	5%	9% 1,569

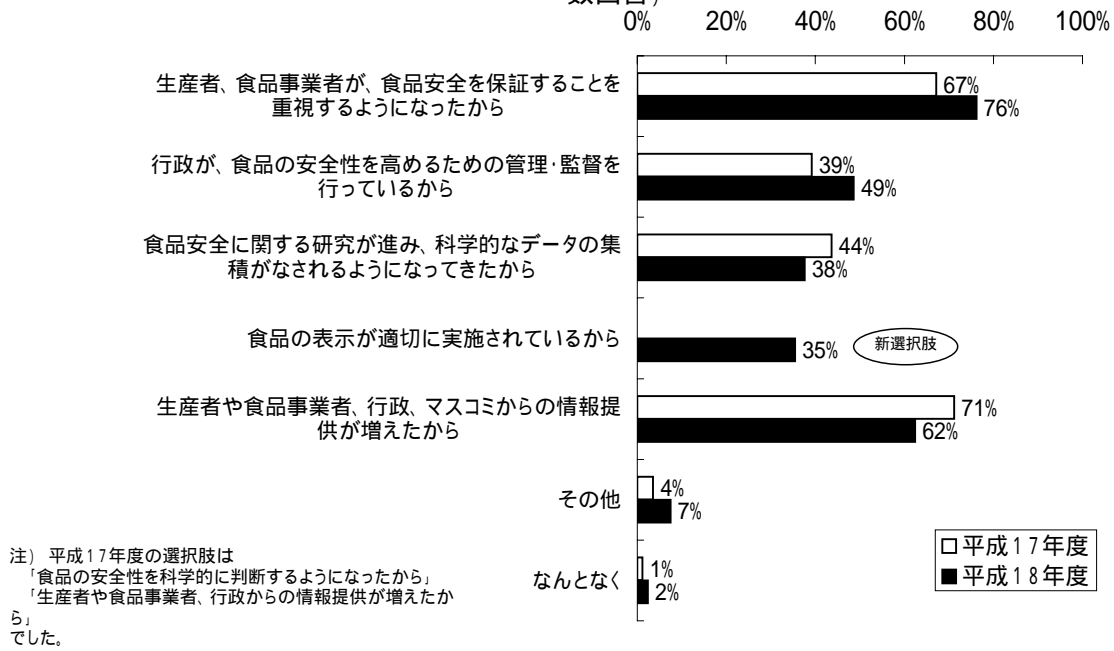
昨年同様、「どちらかといえばより安全ではなくなっている」との回答が、「どちらかといえばより安全になっている」を上回りました。「変わらない」「わからない」という回答は昨年と比べると、増加の傾向を示しました。



問3-2	問3-1で とお答えの方にお伺いします。そう思うのはなぜですか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)		
	生産者、食品事業者が、食品安全を保証することを重視するようになったから	67%	76% (回答者数)
	行政が、食品の安全性を高めるための管理・監督を行っているから	39%	49%
	食品安全に関する研究が進み、科学的なデータの集積がなされるようになってきたから	44%	38%
	食品の表示が適切に実施されているから		35%
	生産者や食品事業者、行政、マスコミからの情報提供が増えたから	71%	62%
	その他	4%	7%
	なんとなく	1%	2% 1,569

昨年同様、「生産者、食品事業者が、食品安全を保証することを重視するようになったから」、「生産者や食品事業者、行政、マスコミからの情報提供が増えたから」という理由が多くあげられました。

問3 - 2 なぜ、社会全体として、「どちらかといえばより安全になっている」と思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

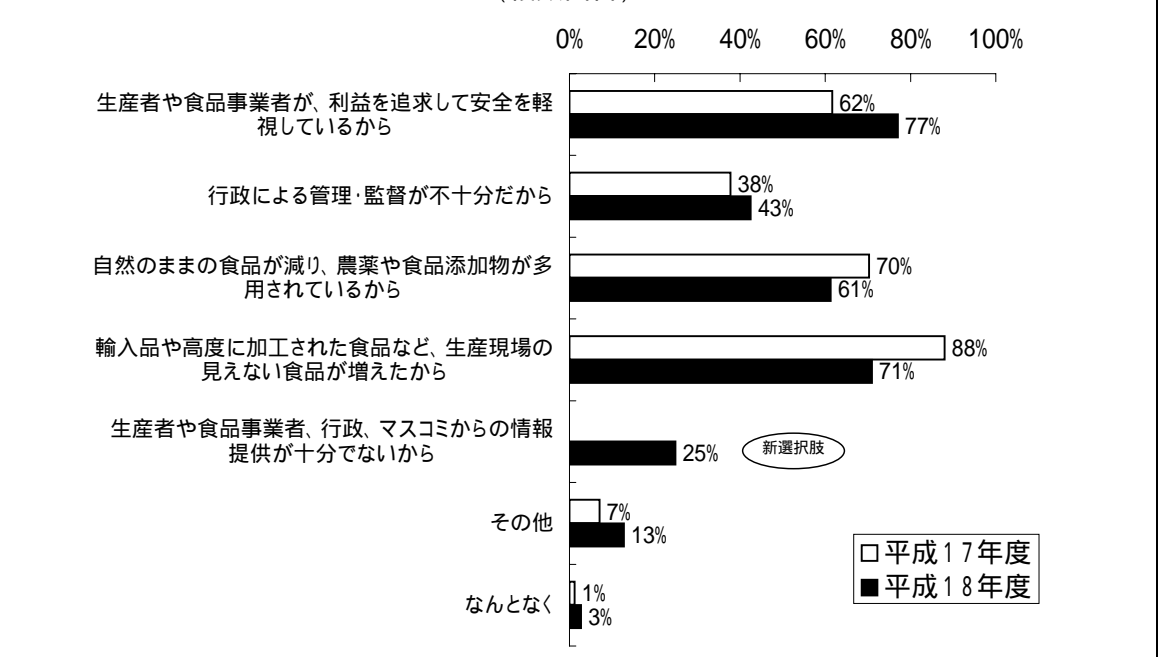


問3 - 3 問3 - 1で とお答えの方にお伺いします。そう思うのはなぜですか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

理由	平成17年度 (%)	平成18年度 (%)	(回答者数)
生産者や食品事業者が、利益を追求して安全を軽視しているから	62%	77%	1,569
行政による管理・監督が不十分だから	38%	43%	
自然のままの食品が減り、農薬や食品添加物が多用されているから	70%	61%	
輸入品や高度に加工された食品など、生産現場の見えない食品が増えたから	88%	71%	
生産者や食品事業者、行政、マスコミからの情報提供が十分でないから		25%	
その他	7%	13%	
なんとなく	1%	3%	

昨年同様、「生産者や食品事業者が、利益を追求して安全を軽視しているから」、「自然のままの食品が減り、農薬や食品添加物が多用されているから」、「輸入品や高度に加工された食品など、生産現場の見えない食品が増えたから」という理由が多くあげられました。

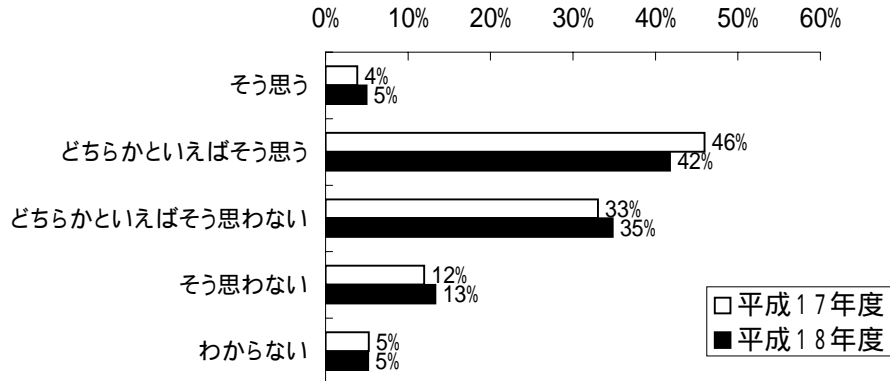
問3 - 3 なぜ、社会全体として、「どちらかといえばより安全でなくなっている」と思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)



問4	行政は食品の安全性に関する必要な情報を提供していると思いますか。(単数回答)		
	そう思う	4%	5% (回答者数)
	どちらかといえばそう思う	46%	42%
	どちらかといえばそう思わない	33%	35%
	そう思わない	12%	13%
	わからない	5%	5% 1,569

行政は食品の安全性に関する必要な情報を提供していると思う(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)が47%、一方で行政が必要な情報を提供していると思わない(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」)が48%となり、昨年と同様の傾向を示しました。

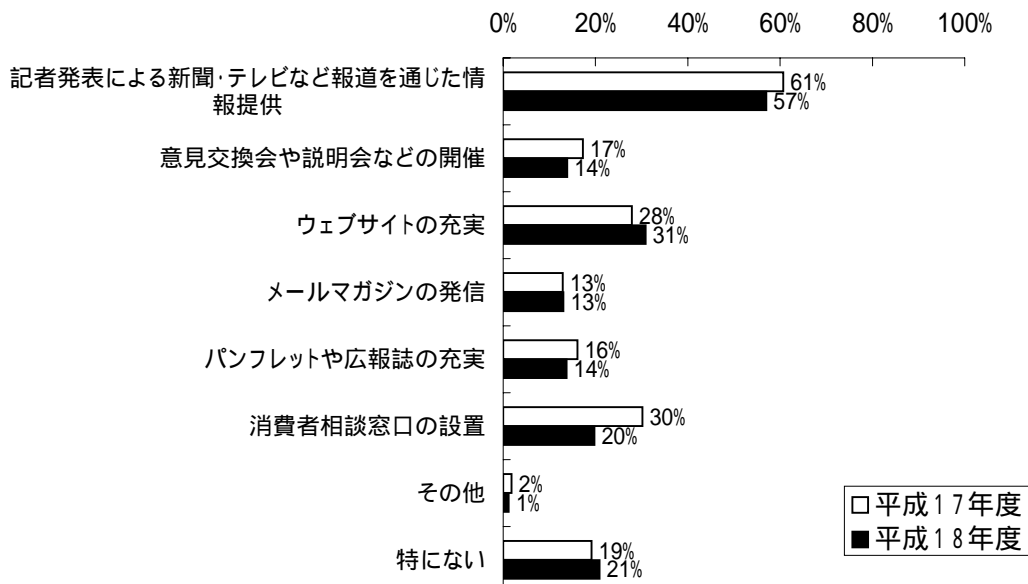
問4 行政は食品の安全性に関する必要な情報を提供していると思いますか。(単数回答)



問5	食品の安全性に関する行政の情報提供の取組として、良くなっていると思うものがあれば、すべて選んでください。(複数回答)		
	記者発表による新聞・テレビなど報道を通じた情報提供	61%	57% (回答者数)
	意見交換会や説明会などの開催	17%	14%
	ウェブサイトの充実	28%	31%
	メールマガジンの発信	13%	13%
	パンフレットや広報誌の充実	16%	14%
	消費者相談窓口の設置	30%	20%
	その他	2%	1%
	特になし	19%	21% 1,569

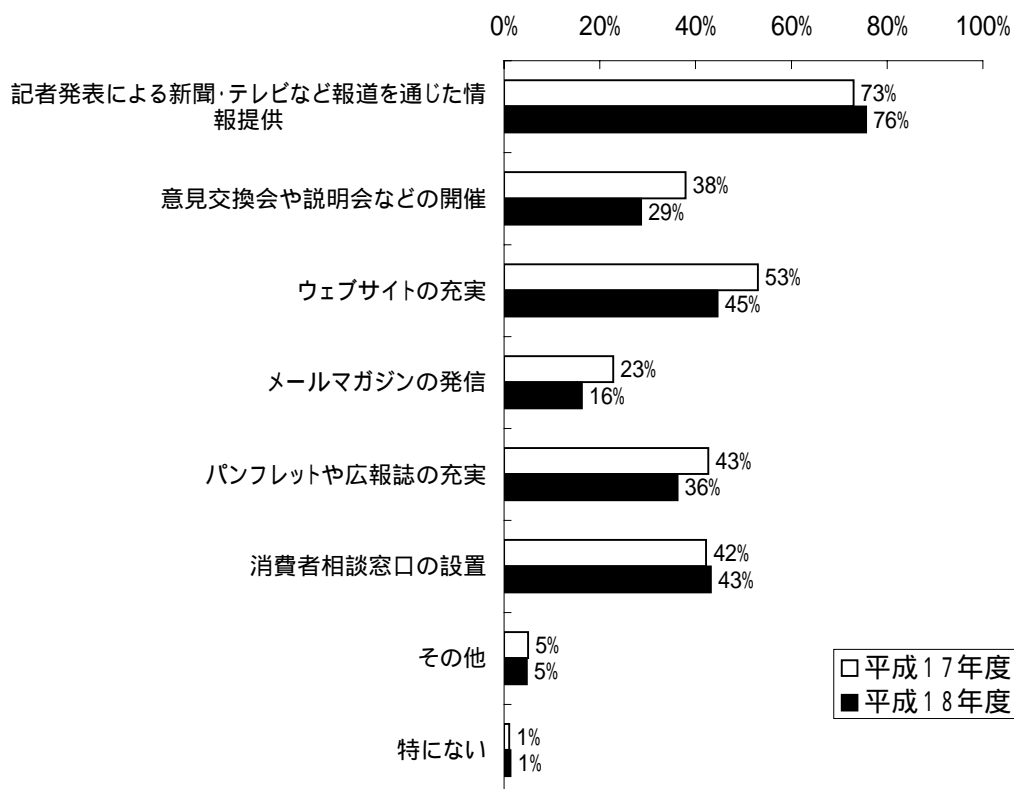
昨年同様、マスメディアを通じた情報提供への評価が最も多くありました。

問5 食品の安全性に関する行政の情報提供の取組として、良くなっていると思うものがあれば、すべて選んでください。(複数回答)

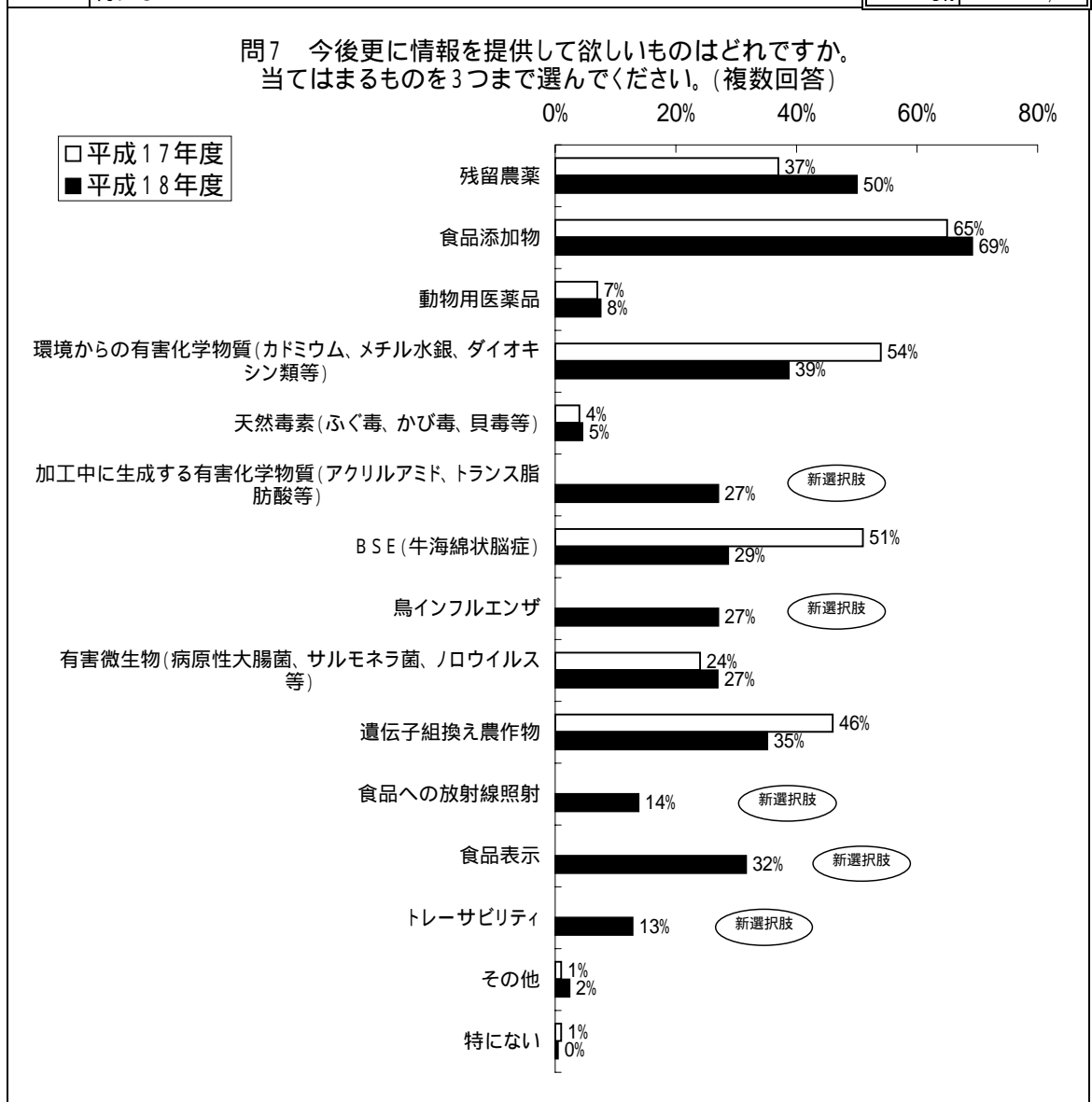


問6	食品の安全性に関する行政の情報提供の取組として、今後更に進めて欲しいものはどれですか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)			
	記者発表による新聞・テレビなど報道を通じた情報提供	73%	76%	(回答者数) 1,569
	意見交換会や説明会などの開催	38%	29%	
	ウェブサイトの充実	53%	45%	
	メールマガジンの発信	23%	16%	
	パンフレットや広報誌の充実	43%	36%	
	消費者相談窓口の設置	42%	43%	
	その他	5%	5%	
	特にない	1%	1%	

問6 食品の安全性に関する行政の情報提供の取組として、今後更に進めて欲しいものはどれですか。当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答)



問7	今後更に情報を提供して欲しいものはどれですか。当てはまるものを3つまで選んでください。(複数回答)		(回答者数)
残留農薬	37%	50%	1,569
食品添加物	65%	69%	
動物用医薬品	7%	8%	
環境からの有害化学物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	54%	39%	
天然毒素(ふぐ毒、かび毒、貝毒等)	4%	5%	
加工中に生成する有害化学物質(アクリルアミド、トランス脂肪酸等)		27%	
BSE(牛海綿状脳症)	51%	29%	
鳥インフルエンザ		27%	
有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌、ノロウイルス等)	24%	27%	
遺伝子組換え農作物	46%	35%	
食品への放射線照射		14%	
食品表示		32%	
トレーサビリティ		13%	
その他	1%	2%	
特にない	1%	0%	



(注) 小数点以下第1位で四捨五入しています。四捨五入の関係で単一回答でも合計が100%にならないこと、有効回答があっても0%になることがあります。